

2024年度地球環境科学部 学生研究プロジェクト 成果報告

研究タイトル

令和から見た寛政期の景色～伊能図（第一期測量）古河宿から宇都宮宿を歩く

研究成果

伊能図は初めて日本での科学測量によって作成された地図であり、その正確性も高いものである。私たちは伊能忠敬が当時辿った道を私たちも実際に歩いてみたいと思った。

そこで、本研究の内容は、伊能図の第一期測量のルートにあたる古河宿～宇都宮宿を実際に歩き、簡易的な測量と現在と寛政期の景観の比較を実施した。簡易的な測量は測量ポールとゴルフで使う距離計を用いて行った。計測値をより正確なものにするために計測者は2人でおこなった。

測量結果に関しては、今回使用した距離計が1m単位でしか測定できないため誤差が生じることは想定内の範囲内だと考えていた。

誤差が生じた要因として考えられることは次の3つある。1つ目は、計測者が計測時にポールの手前のものに照準が合わさってしまったために生じた可能性がある。2つ目は、使用していた距離計の計測値をmではなくヤードで表示してしまった場合などの測定機側の要因が考えられる。3つ目はポールを持つ人の位置がずれたことによる誤差が生じていると考えられている。(以下に集計表を記載)

測定地点 計測者	古河宿～小山宿 実距離(15.7 km)	小山宿～宇都宮宿 実距離(29.8 km)
計測者 A	15.584 km	29.526 km
計測者 B	15.625 km	29.550 km
計測者差	0.041 km	0.024 km
実距離差	0.0955 km	0.262 km

景観の比較は、小金井一里塚と新田宿を中心に比較した。小金井一里塚に関しては、現在でも2つの塚がほぼ完存している。そして、道路形状の変化、建物の増加、一里塚周辺に当時形成されていた小金井の宿場跡があることが観察で分かった。一方で新田宿に関しては、当時の面影を残した建造物は、青木本陣跡以外はほぼ残っていない。その代わりに、宿の跡地にあたるには屋号が残されている。



図：実際に歩んだルート

(国土地理院 地理院地図より作成)